

# 琉球大学学術リポジトリ

## 巻頭言

|       |  |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: ja<br>出版者: 琉球大学大学院教育学研究科<br>公開日: 2017-06-23<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 大城, 肇<br>メールアドレス:<br>所属: |
| URL   | <a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/36907">http://hdl.handle.net/20.500.12000/36907</a>                |



## 巻頭言

学長 大城 肇

平成18年7月の中央教育審議会答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」において、教員養成に特化した教職大学院制度の創設が提言されました。この答申で、「教職は、人間の心身の発達にかかわる専門的職業であり、その活動は、子どもたちの人格形成に大きな影響を与えるものである。」と述べられています。

平成20年4月から開学したわが国の教職大学院は、次の二種の教員を養成すべきものとして掲げています。すなわち、①実践的な指導力を備えた新人教員の養成と、②現職教員を対象にしたスクールリーダー（中核的中堅教員）の養成です。

平成28年4月に開設した本学の教職大学院（大学院教育学研究科高度教職実践専攻）も、そのような人材養成目標を持って第1期生15名を受け入れました。院生は、理論と実践の往還する研究実践活動を通して、授業実践力、生徒指導力、学級・学校経営力、危機管理能力などを身につけ、学校現場に生起する諸問題を解決する高い資質能力を培います。

現職教員は、学校現場には見えない世界が見えてきたのではないのでしょうか。教職を経験しながらの学び直しは、確かな資質や素養となり、力量ある教員としての幅が広がっていくものと確信します。

ストレートマスターは、未だ経験のない学校現場での実践例や現代の教育課題について、現職教員との学びを通して、新人教師としての専門的知識や指導技術等を身に付けることができることでしょう。

この報告書は、琉球大学教職大学院の記念すべき第1期生の、この1年間の学びの足跡をとりまとめたものです。課題研究では、自らの仮説を設定し、実践的活動を通じて検証しようとする取組の中間報告が掲載されていますが、沖縄県内における様々な教育課題に果敢に挑戦しているのが特徴と言えます。

教職大学院での学びによって、院生諸君が生まれ変わって成長することは、沖縄の教育現場がよい方向へ変わっていくことを予感させます。この学びの場で、院生が熱い志で充実した日々を送ってもらうことを願っています。